

博士課程教育リーディングプログラム 平成23年度プログラム実施状況報告書

採択年度	平成23年度		
プログラム名	グローバル原子力安全・セキュリティ・エージェント養成	申請大学長名	伊賀 健一
申請大学名	東京工業大学	プログラム責任者名	丸山 俊夫
申請類型	オンリーワン型	プログラムコーディネーター名	齊藤 正樹

<プログラム進捗状況概要>

1. プログラムの目的・大学の改革構想

本プログラムの目的は、「人類の生存基盤を脅かす核拡散、核テロ、大規模な原子力災害や緊急被ばく問題等のグローバルな原子力危機」（原子力安全・セキュリティ分野）における諸課題を解決し、平和で安全・安心な生活を保障する人間社会の構築を目的として、高い国際交渉能力を有し、国内外の原子力関連の産官学界で国際的リーダーとして活躍する人材「グローバル原子力安全・セキュリティ・エージェント」を養成することである。

本プログラムは、“「個性を磨く原子力大学院教育システム」－基本コースワークと研究リテラシーの組織的両輪教育－”（平成20～22年度、以後、GP-ATOMと略す。）を基盤として、先般の福島第一原子力発電所の過酷事故も踏まえて、教育内容を大きく発展させ提案したものである。本学においてGP-ATOMでは、教員と学生の双方が学位論文研究を偏重し、また、学生が学位論文研究に関連した偏ったコースワークを集中的に履修して視野狭窄に陥ることを是正するために、修士課程入学後半年間は研究室に所属させないで、新入生コース室制度（学生を原子力工学コース室あるいは原子核基盤コース室に常駐させる。）を導入し、コースワーク教育の充実と研究リテラシー教育の充実を組織的に実施した。また、新入生コース室制度期間中は、必修科目である「原子核工学講究第一（4月入学生）あるいは第二（10月入学生）」として3つの研究室を訪問させ（ラボ・ローテーション）、各研究室のセミナー等に参加させることにより、多様な世界最先端研究を理解させてきた。

このような状況下、近年、原子力3S（Safety（安全）、Security（核セキュリティ（核テロ対策））、Safeguards（核不拡散・保障措置））の研究・開発の気運が世界的に高まり、日本が世界のイニシアチブをとることを宣言した。そして、福島第一原子力発電所の過酷事故が発生し、根本に戻った原子力安全研究が必須であるとの教訓を改めて得た。

そこで、本プログラムでは、養成する人材像を明確に“高い国際交渉能力を有し、国際的リーダーとして活躍する人材「グローバル原子力安全・セキュリティ・エージェント」”とし、GP-ATOMで構築した教育システムを基盤として更に大きく発展させて人材養成を実施することとした。本プログラムの目指すところは、コースワーク教育と研究指導教育の両輪教育を組織的に高度に実施し、また、全寮制の「世界原子力安全・セキュリティ道場」を設立して学生を鍛えることにより、「グローバル原子力安全・セキュリティ・エージェント」を養成することであるが、この組織的両輪教育実施で得られた知見や教員の意識を本学教育推進室経由で各研究科・専攻にフィードバックすることによって、本学の大学院教育改革に大きく貢献するものと確信している。

2. プログラムの進捗状況

本学位プログラムの目的である「グローバル原子力安全・セキュリティ・エージェント」養成を平成24年度から本格実施するため、平成23年度は本プログラム立ち上げを主な目的として、以下の項目を実施した。

1. 本学位プログラム課程等に関する学内規則の整備を行った。
2. 企画・実施・運営体制として運営委員会、企画委員会、実施委員会等を設置した。また、評価・改善体制として自己点検評価委員会、外部評価委員会を設置し実施した。
3. 原子力安全、核セキュリティ、核不拡散・保障措置に係わる講義科目、演習・実習科目、実験科目、高度国際教養に係わる講義科目等の新設の授業開発準備を行った。
4. プログラム担当者のみならず国内外の専門家を講師とした原子力安全・核セキュリティ・核不拡散に関する国際セミナーを学生も参加して開催した。
5. 本学位プログラム参加学生の鍛錬場である世界原子力安全・セキュリティ道場の設置のための準備を行った。
6. 本事業専属の教育研究スタッフ（特任教授等）を雇用し準備を開始した。
7. 本事業専属スタッフの専用スペースの整備を行った。